

夜の海辺のふしぎな光！
ウミホタルの幻想的な発光を観察する

広島干潟生物研究会
(2024/07/27)

海底にそれぞれ自作のトラップを設置しウミホタルの捕獲準備をします。その間、砂浜で夜行性の生き物たちを観察します。その後トラップを引き上げ、ウミホタルを取り出して発光のようすを観察します。幻想的な光に息を呑む瞬間です。採れたウミホタルを海に放つとそれが刺激となって海面をコバルトブルーに染め上げ、大きな歓声が上がります。

目的 自然度の高い海岸に生息する自然や生物を観察し、広島市内の干潟の生物を考える上での基準を自分の中に設ける。また、個々の特色ある生物とその生活の様子を観察し、環境の保全を考える。

内容 島嶼部にある典型的な前浜干潟に出かけ、発光生物であるウミホタルを採集し、観察する。また夜行性海岸生物の多様性に触れる。

ガイド 広島干潟生物研究会事務局長 くやみつお (元大柿町海辺の生き物調査団長)

日時 2024年9月7日(土) 18:10~20:40 (現地集合、現地解散)

場所 江田島市切串(駐車場の制限がありますので、車の台数、大きさをお知らせ下さい。)

持参 懐中電灯(各自)、タオル、軍手、健康保険証の写し、トラップ(ウミホタルホイホイ；次ページを参照して各自で作ってくる)とエサ(自分で考えて持ってくる)

【あれば便利；ミニスコップ、ミニ水槽またはミニバケツ、小さな網、軽食、飲み物】

服装 長靴、長袖、長ズボン。(できるだけ肌を出さない工夫)

参加費 無料。

申し込み方法

① 「ウミホタル申込」とタイトルをつけてメールで8月30日までに申し込む。

E-mail laboorca@gmail.com なお、今回は電話では受け付けません。

参加者全員の氏名(カタカナ)、学校名・学年(成人の場合は「成人」とする。)、車の大きさと台数、代表者の連絡先を、下記の【記入例】に従って送信する。

② 2, 3日待って返信がない場合は、お電話(082-274-4100)ください。

③ 雨天の場合は中止とし、微妙な場合には、当日の午前8時までに判断し当会のブログ<http://kankyouseibutu.blog.fc2.com/> に載せますので確認してください。

【メールでの申込記入例】

ヒロシマハルオ	成人	ワンボックスカー1台
ヒロシマナツコ	成人	090-7998-6598
ヒロシマアキコ	己斐小2年	

当日の日程

- 18:10 集合、点呼
- 18:20 オリエンテーション、トラップの設置。
- 19:00 砂浜に移動し夜行性動物の観察。ゴミ拾い。
- 20:00 トラップの回収、観察
- 20:40 解散
 - 切串港発広島港行きの最終便は20:55
 - 切串吹越港発天応行きの最終便は21:07

集合場所



◆主催 広島干潟生物研究会

◆支援 広島県環境県民局 環境保全課

◆共催 科学実験教室 ラボ・オルカ

◆後援 広島市教育委員会

第5回干潟観察会 参考資料

●広島市内から現地集合場所までの経路

- ①広島港（宇品）—【上村汽船フェリー30分】→切串港棧橋—【徒歩5分】→現地
フェリー運賃；大人往復 860 円
- ②呉ポートピア港（天応）—【さくら海運 12 分】—切串吹越港—【徒歩 20 分、車 5 分】→現地
フェリー運賃；大人往復 650 円
- ②広島→呉→音戸大橋→早瀬大橋→現地【総時間 1 時間 30 分程度】
広島呉道路料金；片道 970 円

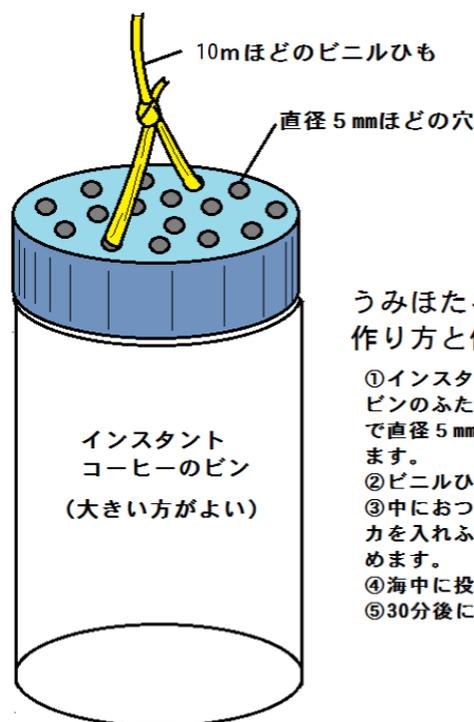
●トラップを自分で作って自分で採集

トラップ（捕獲器；ウミホタルホイホイ）は各自で作って持参してください。何個でもかまいません。ふたの穴開けは、ラボ・オルカ己斐校でできますので、ご相談ください。

ヒモの端には名前を書いたプレートなどをくくって地面に置き、流されない工夫をしてください。エサも各自でご準備ください。さきイカ、かまぼこ、チーズ、豚のレバーなどが有効です。あれこれ試してみてください。（匂いの強いものの方がいいようです）

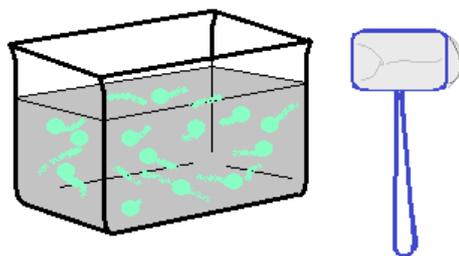
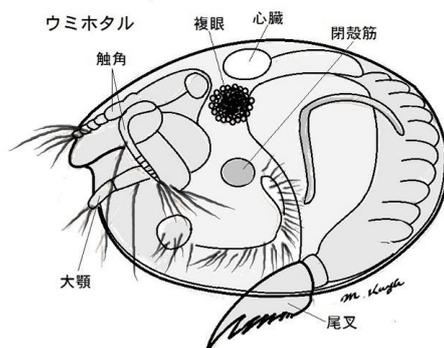
水深が 3、4 m ありますので、ひもは最低でも 5、6 m は必要です。

ピンが軽いと沈みませんので、プラスチックのトラップの場合、中に石などの重りもいっしょに入れます。



うみほたるホイホイの 作り方と使い方

- ①インスタントコーヒーのビンのふたにドリルかくぎで直径 5 mm ほどの穴をあけます。
- ②ビニルひもを通します。
- ③中におつまみ用のさきイカを入れふたをしっかりとめます。
- ④海中に投げ入れます。
- ⑤30分後に引き上げます。



小さなプラ水槽と小さな網をセットで持って来れば、採ったウミホタルの泳ぎも観察できます。また、ウミホタルを持ち帰るには、ふたのある容器を準備し、携帯用エアレーションをセットして酸欠を防ぎます。現地の海水をできるだけたくさん持ち帰るか、専門店で人工海水の素を購入して、3%に溶かして用います。

自宅では、飼育している水槽に、9V 乾電池で電流を流すと発光します。飼育中のエサは、イソメ（釣り具やで購入）を切って与えるのが便利です。水替えをして水の腐敗に注意。